

1. 科目コード

1290

2. 科目名

M42: ビジネスプロセス演習

3. 担当教員

二見 強史 (Tsuyoshi Futami)

4. 開講期

秋1期

5. 履修要件(前提科目)・重要情報

「1299 ビジネスプロセス特論」を履修していることが望ましい。原則、昼(3時限・4時限)は教室、夜(6時限・7時限)オンラインですが、昼オンライン受講可。プログラミング言語の知識は特に求めませんが、実存する企業の業績を評価分析していただきますので社会人経験があれば取り組みやすいと思います。社会人経験がない学生の場合は、興味のある会社・業界について取り組むことがお勧めです。

6. 科目の目的・概要

EDINETなどから割られる企業情報をもとに、時価総額や社会貢献指標など、社会的に低評価の問題を分析し、改善提案することが最終プレゼンテーションのテーマになります。講義では、企業を分析するためのKPI(重要業績評価指標)について解説します。毎週のレポートのテーマは、ビジネス分析に必要な時事問題や技法を提出します。

7. 授業概要

- 1 オリエンテーション、アンチパターン(動かないコンピュータなど)事例紹介
- 2 EDINET(XBRLと有価証券報告書)の見方、使い方、データ処理の仕方など
- 3 前回の課題の解説と討議
- 4 会計(アカウンティング)のKPI(見方、作り方、利用方法・・以下同じ)
- 5 前回の課題の解説と討議
- 6 マーケティングとセールスのKPI(見方、作り方、利用方法)
- 7 前回の課題の解説と討議
- 8 ウェブマーケティングのKPIとダークパターン
- 9 前回の課題の解説と討議
- 10 イノベーションのKPI、オペレーションのKPI
- 11 前回の課題の解説と討議
- 12 HRMのKPI(人事と組織)
- 13 ファイナンス理論とKPI
- 14 その他の情報提供
- 15 プレゼンテーション
- 16

8. 教科書

9. 参考書

特にありません、アンチパターンとして事例から学ぶビジネスアナリシス,2013,IIBA日本支部
<http://www.iiba-japan.org/know-how/BAps.pdf> からダウンロード可能
参考として、
動かないコンピュータ(日経コンピュータに随時連載)

10. 科目の学習目標

- (1) 問題の原因の追究と解決へ知識体系を適用できる。
- (2) 答えの見えないところに回答を作り出すのに知識体系を利用できる。
- (3) 問題を発生させないようにすることに知識体系を応用できる。

- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)

11. 本学の教育目標と科目の学習目標との対応

教育目標		学習目標	
高度ICT スキルの修得	基礎的素養		
	専門知識および業務応用力	(1),(2),(3)	
人間力 (=探究力) の修得	自ら強みを磨き続ける力	(1),(2),(3)	
	自ら社会における 課題を発見し、 解決する力	課題設定	(1),(2),(3)
		仮説立案	(1),(2),(3)
		仮説検証	(1),(2),(3)
		実行	(1),(2),(3)
	社会人基礎力	前に踏出す力	(1),(2),(3)
		考え抜く力	(1),(2),(3)
チームで働く力			
職業倫理の修得			

12. 評価方法と配点

学習目標	達成度評価方法と配点					
	期末試験	小テスト	レポート	発表	成果物	その他
(1)			○	○		
(2)			○	○		
(3)			○	○		
(4)						
(5)						
(6)						
(7)						
(8)						
配点			40	60		

13. 評価基準

期末試験	
小テスト	
レポート	時事問題、基礎教養に関するレポート
発表	発表時間(分)×1点を原則とするが、テキストを読むだけの冗長な発表の場合は減点することがある
成果物	
その他	

14. アクティブラーニング(A:行っている B:やや行っている C:行っていない)

授業時間全体に占めるアクティブラーニングの時間的な割合		60 %
1	授業で得られた知識や技能を活用し、出題された問題を解いたり、課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
2	グループワークで課題に取り組み、学生同士が自由に発言することで何らかの課題に取り組むなど能動的学習を行う	A
3	能動的学習の成果を発表し、そのフィードバックを得て自ら主体的に振り返り、学習効果を高める	B
4	学生自身が主体となって、授業における学習の方向性を定める	A

15. 備考

討議テーマは、学生からのリクエストがあればそれを優先します。

16. 授業計画

(注)授業計画は、あくまでも予定であり、実施時に、適時、追加・変更・修正等が生じる場合があります。

第1回 (オリエンテーション)

(講義と演習90分)

1. 授業の進め方
2. 社会科学の方法論(リサーチ・メソッド)
特に、事例研究の方法論について、
動かないコンピュータの事例研究方法
企業分析の事例研究方法
3. 有価証券報告書の見方など(XBRLとその利活用)

第2回～第14回 (学生による発表も可。前回レポート課題の解説 (講義とグループ演習
と講義及び次回への誘い) で90分)

・プレゼンテーションは、第15回を予定していますが、第3回以降、あらかじめ申し出ること
で、いつでも発表することができます。
・レポート課題は、必ずしも正解があるわけではありません。学生の提出したレポートの内
容について、できる限りすべての項目・事象(見当外れのモノを除く)について解説・討議
を行うようにしています。そのため開設の時間で一コマ(90分)以上を費やすこともありま
す。
・オペレーション、ファイナンスの講義・演習の中には、数学の知識が必要になるものもあ
りますが、なくても大丈夫です。

例)昨年度のレポートにおいて、【課題:以下の事例(数理最適化問題)をいくつかの解き
方で解けるか。解法の個数とその手法を示せ】の解説として、
①総当たり法(小学校の知識で解けます。中学入試に頻出)、
②グラフから読み解く(中学校の知識で解けます。高校入試問題に頻出)、
③方程式で解く(高校生ならコレ)、
④線形計画法(ラグランジェの乗数法)で解く(理系の大学生ならコレ)、
⑤EXCELのソルバーを使う(ビジネスマンにお勧め)
⑥Googleコラボやコマンドラインにて、線形計画法プラグイン(PuLP)で解く(データサイエ
ンティストを目指す人にお勧め)などを解説しました。
※ なお、レポート、プレゼン作成において生成AIを使用しても構いませんが、「使用(引
用)した部分」を明記するようにしてください。

第15回 (発表会)

(発表と講評で180分)

発表テーマは、ここ数年

<https://www.nikkei.com/marketdata/ranking-jp/market-cap-low/>

を参考に、時価総額の低い会社を分析し、改善方法をプレゼンテーションしています。